

十勝は、北海道らしい雄大な景観が多く、観光客を呼び、地元で収穫される安全・安心・美味しさを誇る農水産物は約1,200%の食料自給率に達し、資源豊富な地域です。また、観光のポテンシャルも高く、ますます国内外の需要は高まっています。これまでに先人が培ってきた資源を活かし、また持続的に発展させるためには、北海道の価値を生み出す「生産空間」を維持し、市街地や観光の場、輸送拠点を効果的に結びつけた十勝圏域全体を見渡した社会資本整備が必要です。

令和6年度は、第9期北海道総合開発計画(以下「新計画」とします。)がスタートします。新計画は、国際情勢等を踏まえた食料安全保障、新型コロナウイルス感染症、2050年のカーボンニュートラル実現といった近年の大きな危機や変化を踏まえ、北海道開発を「絶対推進すべきことから」としています。さらに、国の課題解決を図り、将来像を実現すべく、計画の目標を示し、主要施策として、「我が国の豊かな暮らしを支える北海道～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」、「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり」を掲げています。

帯広開発建設部は、新計画に掲げる目標に向けて、十勝のポテンシャルを最大限発揮すべく、農林業の競争力・付加価値の向上、管内の交通・物流ネットワークの強化を図り、近年激甚化・頻発化する自然災害、切迫する日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の発生などに備え、治水・道路・農業基盤における防災・減災、国土強靱化の推進により災害に強い地域づくりの構築を、関係者と連携を図り、所管する業務を着実に進めて参ります。

また、新計画では、分野を越えて多様な主体と新しい価値を生み出す取組として「共創」を掲げており、官民の垣根を越えて、地域の課題解決や価値向上を推進します。

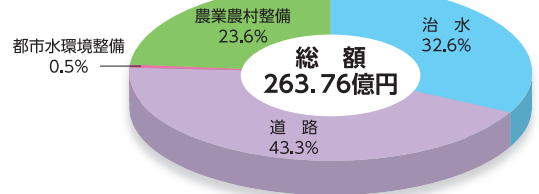


## 帯広開発建設部事業費総括表

事 項	事業費
治 水	8,602百万円
道 路	11,433百万円
都市水環境整備	128百万円
農業農村整備	6,213百万円
計	263.76億円

※1. 農業農村整備を除き、工事諸費は含まれていない。  
 ※2. 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

## 事項別構成比



※四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

# 防災に関する地域支援

## 職員派遣による支援

### TEC-FORCE (Technical Emergency Control Force)

テックフォースとは「緊急災害対策派遣隊」のことです。

近年激甚化する大規模な自然災害に際して、被災状況の把握や被災地の早期復旧のための技術的支援など、被災した地方自治体等の災害復旧を支援します。

令和6年能登半島地震では、北海道開発局から北陸地方整備局管内へTEC-FORCEを派遣するなど、国土交通省が一丸となって被災地域の1日も早い復旧活動を支援しています。



被災状況調査(石川県輪島市)

### リエゾン (Liaison)

リエゾンとは「現地情報連絡員」のことです。

大規模な災害が発生した場合、又は発生のおそれがある場合に地方自治体等に職員を派遣し、(1)災害情報や開発局への支援要望等の情報収集、(2)災害情報の提供、(3)災害対策用機械など、支援資機材等に関する連絡調整を行います。

帯広開発建設部では、平成28年8月の大雨災害時に、管内の9自治体に延べ70名の職員を派遣しました。



リエゾン活動状況(定寄町)

## 災害対策用機械による支援

災害時の緊急対応や情報通信手段の確保のための各種災害対策用機械を配備し、災害時には速やかに出動します。これらの災害対策用機械は地方自治体等の要請に基づき貸与することが可能です。

令和4年8月15日～16日にかけて前線と低気圧の通過により大雨となった際には、帯広市及び豊頃町に排水ポンプ車及び照明車が出動し、緊急排水支援を行いました。

このほか、地域の防災意識の向上を目的として、防災訓練や防災教育の場で災害対策用機械と災害時の支援活動について説明を行っています。



排水ポンプ車による排水支援(帯広市)



帯広工業高校での災害対策用機械を用いた防災教育(写真左から照明車、対策本部車、衛星通信車)